

## [報告] 関東大震災と鎌倉

### — 宮内公文書館蔵『震災写真帳』にみる鎌倉御用邸を中心に —

三重県立総合医療センター\* 木下 恭子

#### The Great Kanto Earthquake and Kamakura

#### — The Royal Family Villa in Kamakura From the Documents of The Imperial Household Archives —

Kyoko KINOSHITA

Mie Prefectural General Medical Center, 5450-132 Ohaza-Hinaga, Yokkaichi-city, Mie-ken, 510-8561 Japan

There are lots of important photographs about the damages of The Great Kanto Earthquake in the Imperial Household Archives. Some of the photos show the damaged Royal family Villas in Kamakura escaped from a fire. From the photos, we recognize the actual damages of the Royal Family Villas and how big the earthquake was.

Keywords: 1923 Kanto Earthquake, The Royal Family Villa

#### § 1. はじめに

大正 12(1923)年 9 月 1 日午前 11 時 58 分に発生した関東地震では、震源に近い神奈川県ほとんどの地域で震度 6 以上を観測した。県東部の鎌倉町(現鎌倉市)では、揺れによる被害のほか、津波や火災による被害も甚大であった。こうした被害の全貌については、『鎌倉震災誌』に写真が多数残され、明らかにされているが、当時、宮内省の所管であった鎌倉御用邸の被害についての詳細は残されていない。

本報告では、宮内公文書館所蔵『震災写真帳 1~4 / 大正・昭和』(識別番号 46880~46883)に残されている被災後の写真を中心に、建物被害の一端を明らかにしたい。

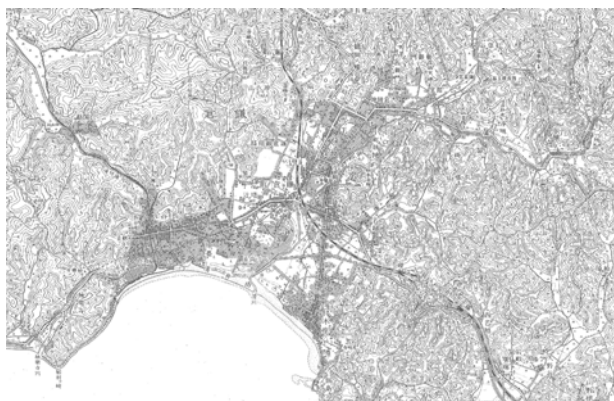


図 1 国土地理院 2 万 5 千分の 1 地形図(鎌倉)

Fig.1 Geographical Survey Institute  
1/25000 topographic map (Kamakura)

#### § 2. 鎌倉町の被害

関東大震災当日、鎌倉町内 4183 戸の、石造、土造、煉瓦造りの建物の多くは被害を受け、北部では山崩れが発生した。

各家庭では昼食の準備中であったために火災が発生し、消火活動もままならぬうちに、正午 0 時 40 分の余震により津波が押し寄せた。沿岸部では、倒壊した建物と人々に大きな被害をもたらした。『鎌倉震災誌』によれば、全潰 1455 戸、半潰 1549 戸、全焼 443 戸、流失 113 戸であった。

#### § 3. 鎌倉御用邸の沿革

明治天皇皇女の富美宮(のちの朝香宮鳩彦王妃允子内親王)と泰宮(のちの東久邇宮聡子内親王)は避寒のため何度か鎌倉を訪れていた。その都度他人の別荘を借り上げ滞在場所としていたが、明治 31(1898)年に両宮の養育主任から宮内大臣に上申され、御用邸の整備が進められることとなった。

鎌倉御用邸の建設場所は、鎌倉停車場より西北の扇ヶ谷とその周辺を買収した民有地と神奈川県より移管した土地で、現在は鎌倉市役所や御成小学校が建ち並ぶ場所である。

敷地面積 59000 平方メートルのうち、1200 平方メートルに御殿が建設され、その他 10 戸の附属屋から構成された。御殿は、麻布第二御料地から移築した建物に増築した和風建築であった。明治 32(1899)年 9 月に

\* 〒510-8561 三重県四日市市大字日永 5450-132  
電子メール: kyoko-kinoshita@mie-gmc.jp

落成し、内匠寮から主殿寮へ引き渡しが行われた。

#### § 4. 鎌倉御用邸の被害

『震災写真帳』に残されている写真は7枚で、損壊した建物6枚(写真2,4,6,8,10,12)と正門付近の外構1枚(写真11)である。

震災前の建物の様子は、宮内公文書館蔵『静岡御用邸、鎌倉御用邸(写真帳)／大正・昭和』(識別番号46849)から抜粋し、震災前と比較した(写真1～10)。写真11,12は、比較できる震災前の写真がないため、震災後の写真のみとした。なお、それぞれの写真のキャプションは原典通りとしたが、名称や外観等から震災前後、同一であると確認した。

また、図2は宮内公文書館蔵『鎌倉御用邸総図／大正11年』(識別番号98137)をトレースし、同『蟻害調査写真帳 小田原御用邸、箱根離宮、熱海御用邸、鎌倉御用邸、宮ノ下御用邸(写真帳)／大正・昭和』(識別番号46887)を参考に部屋名を追記し、撮影場所を①～⑤、撮影方向を矢印で表記した。以降で、それぞれの建物について見ていきたい。

事務所(写真1,2)は、木々の奥の建物が倒壊し、1階部分が潰れ、瓦が地面付近にあることが確認できる。

調理所(写真3,4)は、写真3にある井戸の左手奥の建物が写真4では全壊した様子が、はっきりと確認できる。

車寄(写真5,6)は、柿葺の屋根は、柱が損壊しそのま

ま地面に落ち、後方の瓦葺の建物は全壊し、瓦も破損している。

御座所(写真7,8)は、1階部分が完全に崩れ、屋根が落ちている。写真7には、後方に2階建ての建物が確認できるが、写真8では、その部分も完全に倒壊している様子が確認できる。

女官部屋(写真9,10)は、写真9は全景を写し、写真10は崩れた部分の拡大であるため、どの部分に被害があったのかは不明だが、屋根瓦は全壊していることが確認できる。

正門付近外構土塁(写真11)では、土塁そのものが崩れている様子はないが、土塁にひび割れが確認できる。

臣下昇降口(写真12)は、震災前の様子は不明だが、原形を留めておらず、被害の大きさが窺える。

宮内公文書館蔵の『宮内省臨時災害事務紀要大正一二』(識別番号84453)に記載されている「鎌倉御用邸八御殿六百七十坪、全壊セリ。」との記録を裏付け、大きな被害があったことがわかる。

なお、激震により大破した山階宮家別邸滞在中に負傷した賀陽宮妃は、鎌倉御用邸の車寄前の広場に設けられた天幕に一時避難され、その後9月16日に帰京された。この避難所には、付近からの避難者も収容された。また、薨去された山階宮妃の遺体は賀陽宮妃の帰京と同日に東京に搬送されている。

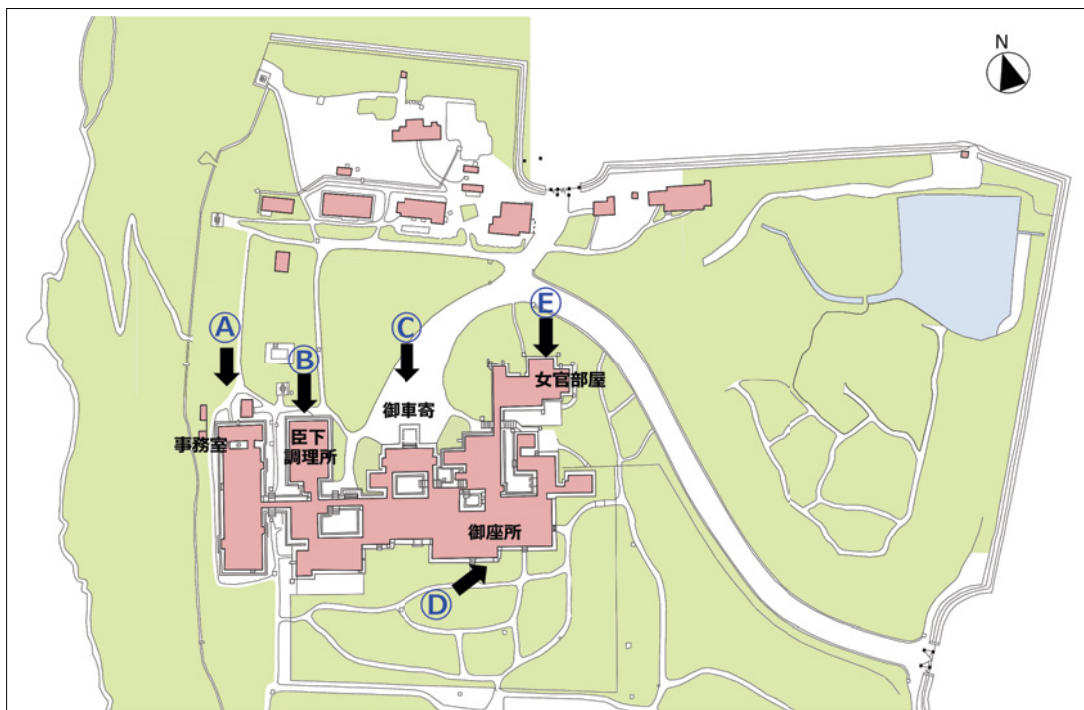


図2 鎌倉御用邸配置図

(『鎌倉御用邸総図』からトレースし、『蟻害調査写真帳』を参考に部屋名を追記。撮影場所を①～⑤、撮影方向を矢印で表記。)

Fig.2 The layout drawing of the royal family villa in Kamakura



写真 1 御殿事務所附近(震災前)  
Photo1 The Office (before the earthquake)



写真 2 事務所(震災後)  
Photo2 The Office (after the earthquake)



写真 3 臣下調理所附近(震災前)  
Photo3 The cooking place (before the earthquake)



写真 4 調理所附近(震災後)  
Photo4 The cooking place (after the earthquake)



写真 5 御殿御車寄(震災前)  
Photo5 The carriage (before the earthquake)



写真 6 御車寄(震災後)  
Photo6 The carriage (after the earthquake)



写真 7 御座所其式(震災前)  
Photo7 The princess room (before the earthquake)



写真 8 御座所(震災後)  
Photo8 The princess room (after the earthquake)



写真9 女官部屋附近(震災前)  
Photo9 The woman officers' room  
(before the earthquake)



写真10 女官部屋(震災後)  
Photo10 The woman officers' room  
(after the earthquake)



写真11 正門付近外構土塁(震災後)  
Photo11 The earthen wall near the main gate  
(after the earthquake)



写真12 臣下昇降口(震災後)  
Photo12 The subjects' doorway  
(after the earthquake)

## §5.震災後の御用邸

震災後、御用邸そのものは再建されることなく、大正13(1924)年には御用邸用地の一部が大正天皇の生母である柳原愛子に下賜された。また、昭和6(1931)年に御用邸廃止が決定すると、急激な人口増加により、教育機関等の建設に迫られていた鎌倉町からの願い出により、約50000平方メートルが小中学校、図書館建設敷地として払い下げられた。

## §6.おわりに

鎌倉町内の甚大な被害と同様、御用邸でも大きな被害があったことが確認できた。今後は、御用邸の建築構造を調査し、鎌倉町内の建物被害と比較しながら、被害の具体的様相を確認する作業を進めたい。

また、他の御用邸や皇族邸についても、調査を進めていきたい。

## 謝辞

本報告にあたっては、宮内公文書館書陵部職員の方々に大変お世話になった。また、鎌倉歴史文化交流館の浪川幹夫氏、鎌倉市中央図書館の平田恵美氏には、鎌倉の被害についてのご教示をいただいた。ここに記し、感謝申し上げる。

対象地震:1923年関東地震

## 史料

『震災写真帳1~4/大正・昭和』(識別番号46880~46883).宮内公文書館

鎌倉町役場,1930,鎌倉震災誌,62-65pp

『鎌倉御用邸沿革誌』(識別番号12896).宮内公文書館

『静岡御用邸,鎌倉御用邸(写真帳)/大正・昭和』(識別番号46849)宮内公文書館

『鎌倉御用邸総図/大正11年』(識別番号98137).宮内公文書館

『蟻害調査写真帳 小田原御用邸,箱根離宮,熱海御用邸,鎌倉御用邸,宮ノ下御用邸(写真帳)/大正・昭和』(識別番号46887)宮内公文書館

『宮内省臨時災害事務紀要 大正一二』(識別番号84453)宮内公文書館

『震災録大正12~13年』(識別番号12849)宮内公文書館